

4 死産と乳児死亡

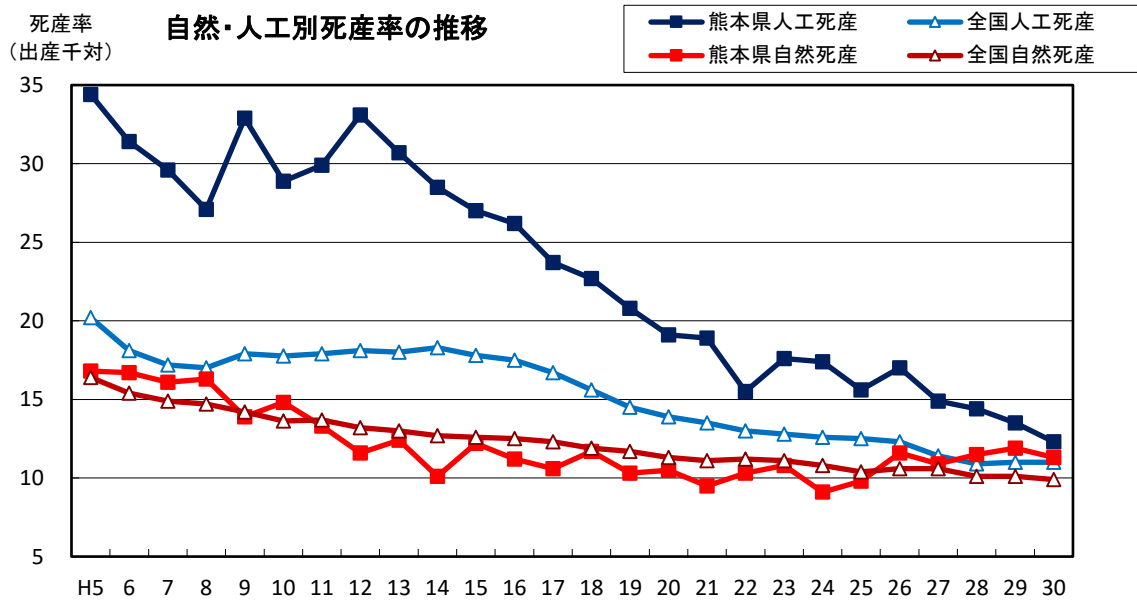
(1) 本県の死産率は、前年より1.8ポイント減少

平成30年の全国の死産率は20.9で、前年より0.2ポイント減少した。本県は23.6で、前年より1.8ポイント減少している。

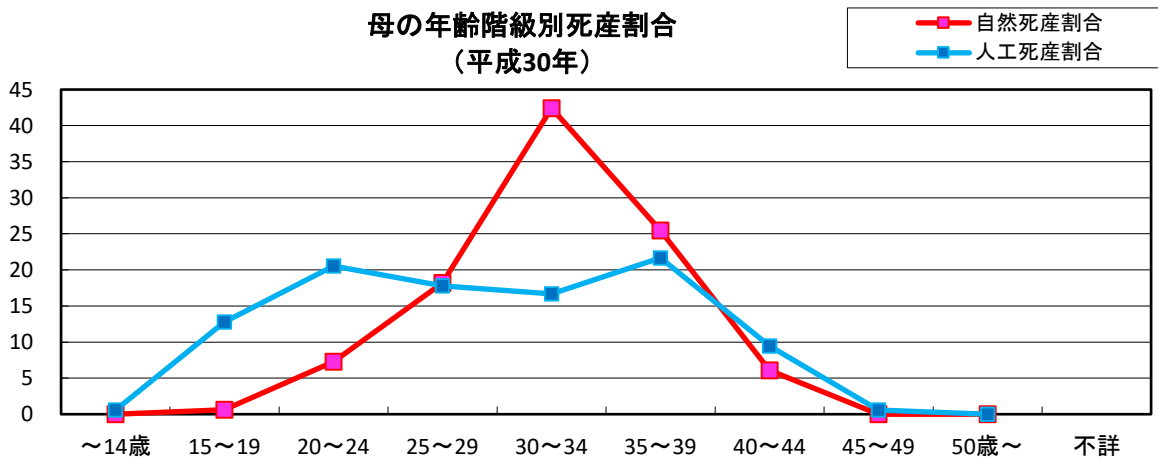
自然死産率（出産千対）は、全国9.9で前年より0.2ポイント減少。本県は11.3であり、前年より0.6ポイント減少した。

また、人工死産率（出産千対）は、全国11.0で前年と同率。本県は12.3で、1.2ポイントの減少であった。

母の年齢階級別に死産割合をみると、自然死産では30歳～34歳、人工死産では35歳～39歳が最多となっている。



資料) 厚生労働省「人口動態統計」

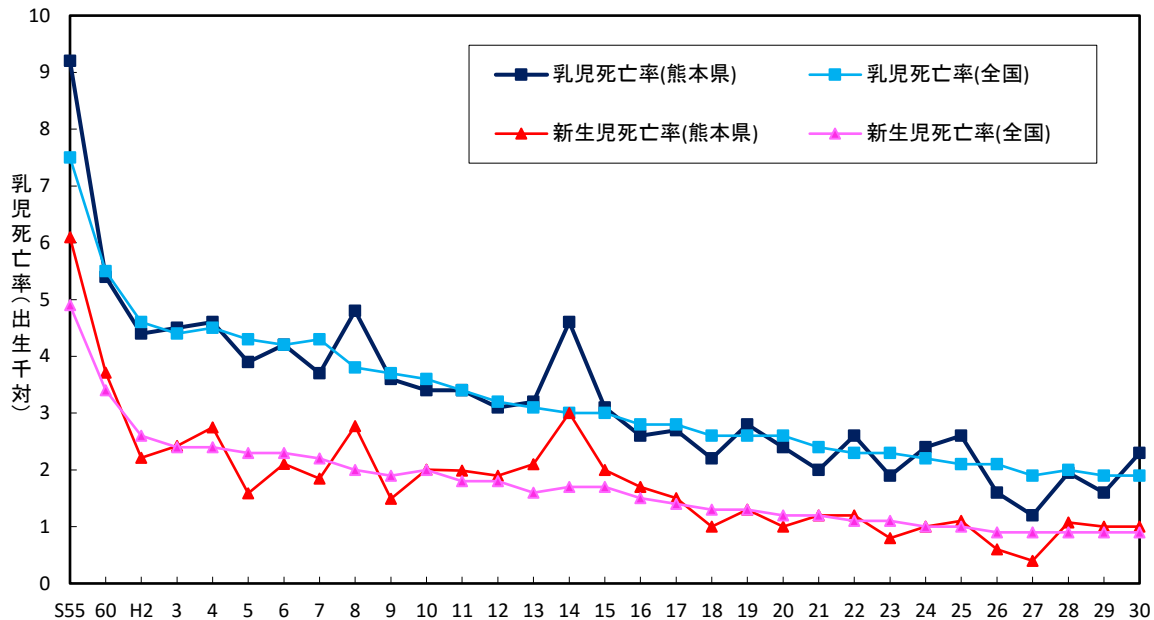


(2) 本県の乳児死亡率は前年より0.7ポイント増加、新生児死亡率は同率

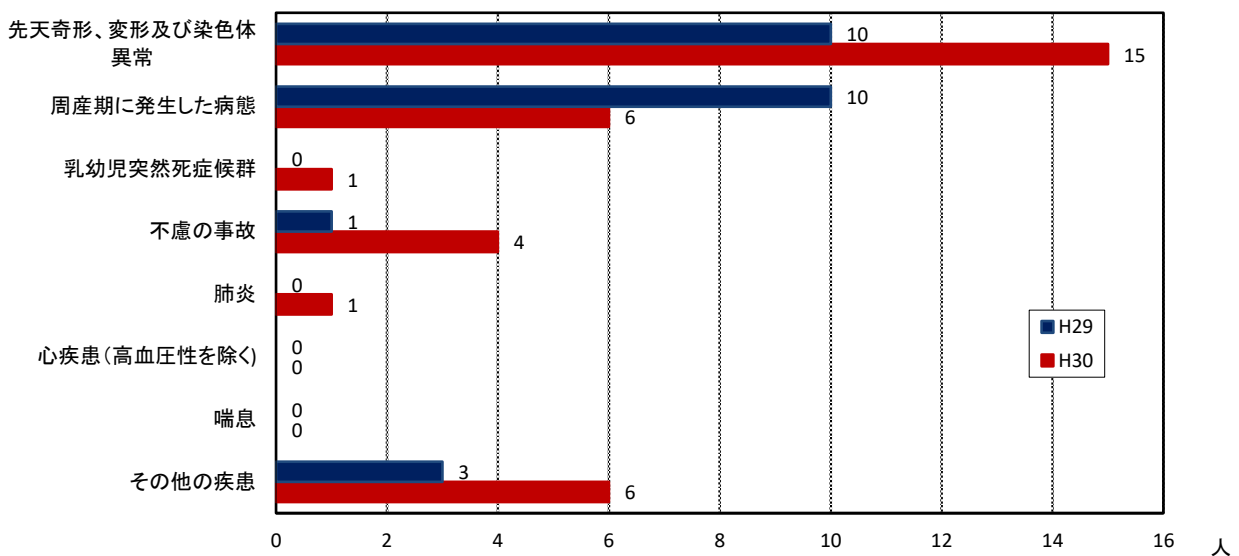
平成30年の本県の乳児死亡数は33人、また、新生児死亡数は15人で、乳児死亡数は9人増加し、新生児死亡数は同数であった。乳児死亡率は、全国は1.9で前年と同率、本県は2.3で前年より0.7ポイント増加した。また、新生児死亡率は、全国は0.9で前年と同率、本県も1.0で前年と同率だった。

本県の乳児死亡数を死因別にみると、「先天奇形、変形及び染色体異常」が15人で最多であり、ついで「周産期に発生した病態」及び「その他の疾患」がそれぞれ6人であった。

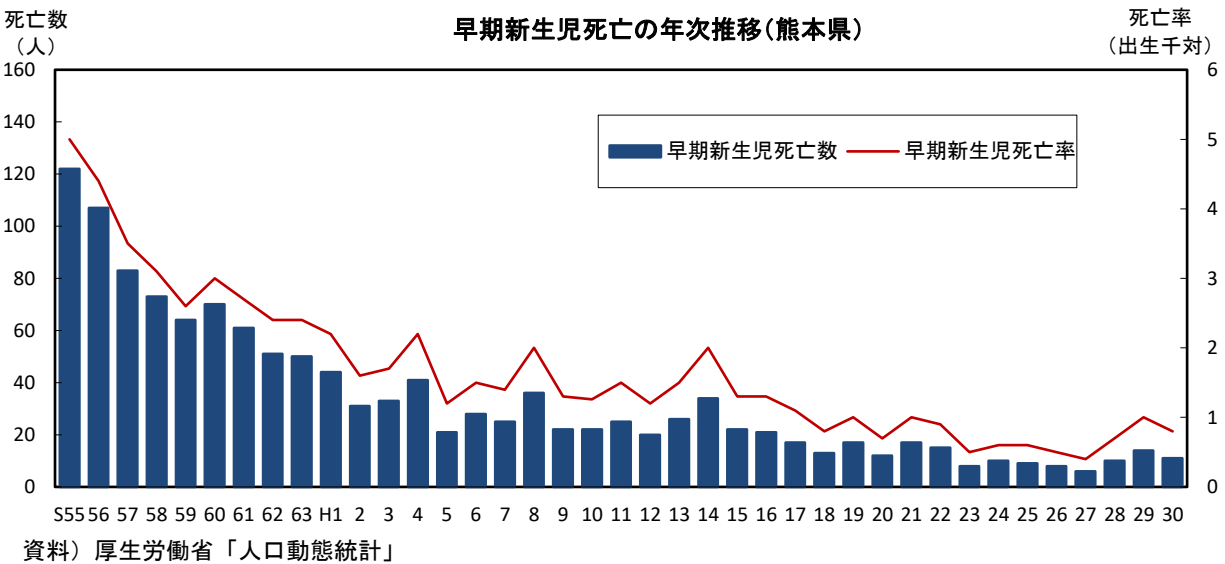
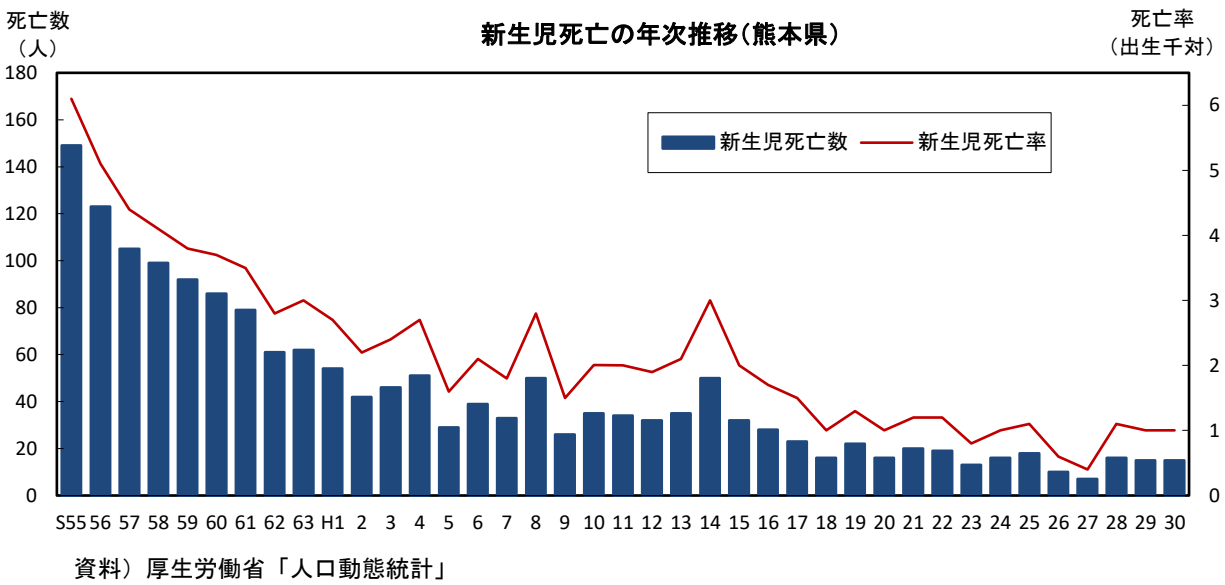
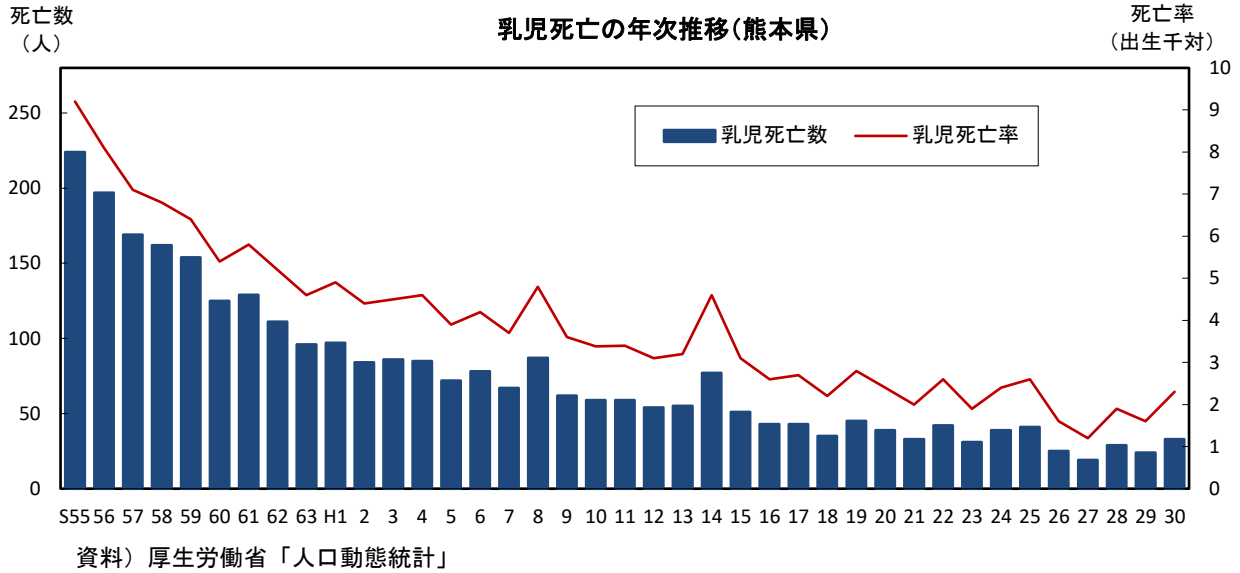
乳児死亡率と新生児死亡率の年次推移



主な死因別乳児死亡数年次比較(H29—H30)



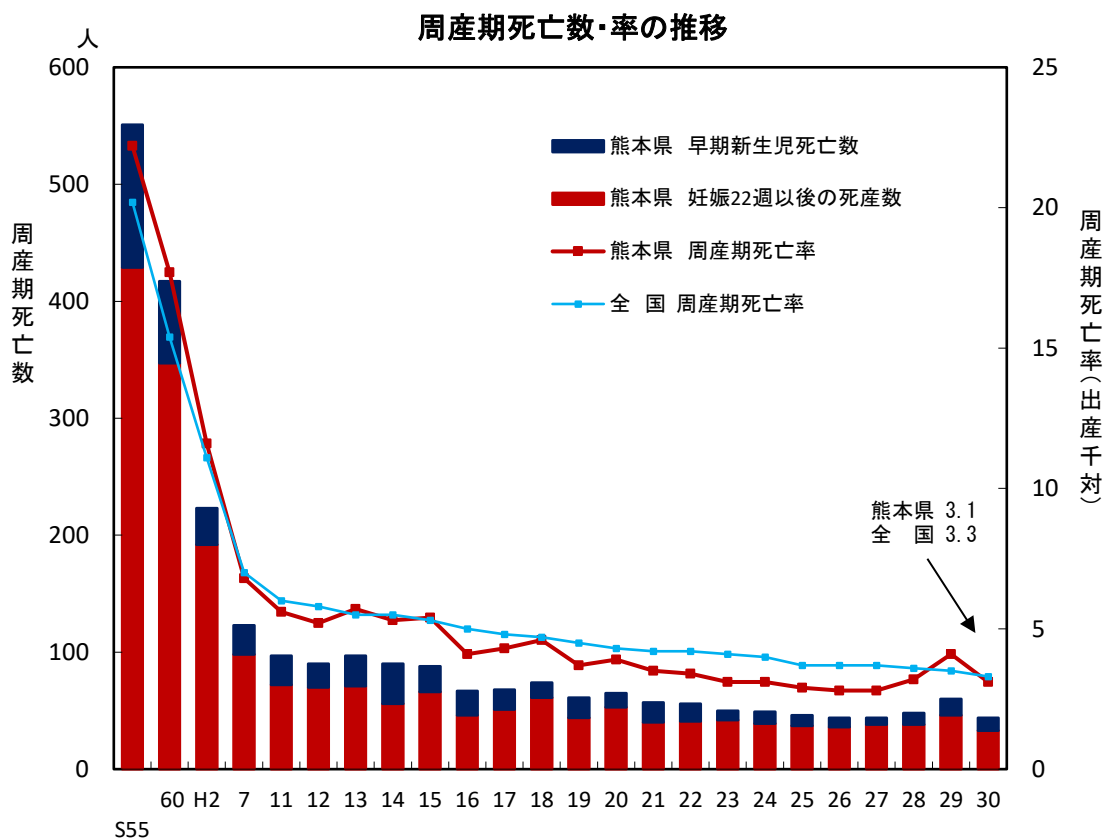
資料) 厚生労働省「人口動態統計」



(3) 周産期死亡率は、3.1で、前年より1.0ポイント減少

本県の平成30年の周産期死亡数は44人（妊娠満22週以後の死産数 33人、早期新生児死亡数 11人）であり、周産期死亡率は3.1で前年より1.0ポイントの減で、全国より0.2ポイント低い値であった。

出産前後の死亡は、母体の健康状態に強く影響されやすいことから、出生をめぐる死亡として周産期死亡を観察している。平成6年までは、「妊娠第28週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせたもの」を周産期死亡とし、通常出生千対の率で算出していたが、平成7年からICD-10を適用したことに伴い、周産期死亡を「妊娠満22週以後の死産数に早期新生児死亡数を加えたもの」とし、周産期死亡率の算出の分母を「出生数+妊娠満22週以後の死産数」にすることとなった。



資料) 厚生労働省「人口動態統計」